

市民と共に目指す

くらし日本一のまちづくり



白石市長
川井 貞一

新年あけまして

おめでとございます。

昨年は、アメリカ同時多発テロと、それに続くアフガン紛争による世界情勢の混乱、経済活動の停滞など世界的に暗い影を落としました。

わが国でも先行きの見えない不況下であり、政治、行政面においても閉塞感が増しておりますが、一方で、新宮様のお誕生など明るい話題もありました。

当市では、市内大手製麺企業が倒産し、地元経済も厳しい状況にあることを実感させられました。また、市役所においては、職員による公金着服という市役所始まって以来の不祥事が起こり、市

民の皆様にも多大なご迷惑をお掛けしたことに對し、改めておわび申し上げます。

二度とこのような事件が起きぬよう、再発防止に努め、職員一丸となって信頼回復に全力を尽くしてまいります。

昨年からは、今後のまちづくりの基本方針を示した、第四次白石市総合計画「新ホワイトプラン」がスタートし、「健康・福祉都市」「環境都市」「生涯学習都市」「IT先端都市」を四つの柱として、「市民と行政のパートナーシップ」によるくらし日本一のまちづくりを目指して進んでまいりました。

現在、地方分権化が一層進む中、国と地方自治体が対等な関係にな

り、市町村自らの責任において特色ある地域社会の創設を図らなければならず、行政、財政両面における都市間競争など、重い責任と自覚が必要な時代となっております。

そうした意味において、白石市のまちづくりは、全国でもトップクラスの適正な財政運営を基に、市民皆様の参画を得ながら、着実に前進しており、今後も「くらし日本一」の「ふるさと白石」を目指し、全力で市政を執行してまいりたいと考えております。

さて、昨年は全国でも初めての「住民の持つていけるきれいな水を享受する権利を守る」ことを明文化した、水道水源保護条例が制定され、今後も、これからの子供たちのため、未来の白石のために小原上戸沢地区の産廃処分場計画が完全に白紙撤回されるまで、市民の皆様と共に粘り強く運動を継続してまいります。

同じく環境面において、南蔵王の自然林の復元に取り組んでいるNPO法人「蔵王のブナと水を守

る会」のナショナルトラスト運動を支援するため、トラスト用地を共同で所有することを決め、今後は、市内児童の総合学習に活用しながら、自然林の復元と保護をしてまいります。

また、白石を会場とした第五十六回国民体育大会の新体操競技と山岳競技では、開催の準備をはじめ、競技の運営、会場内外での美化活動など、まさに「市民と行政のパートナーシップ」による、全国的な運動により白石を訪れた多くの人々に温かさや感動を与えることができ、大成功に終えることができました。

福祉面においては、安心して子育てができるよう、市民による育児相互支援組織として「しろいしファミリー・サポート・センター」を設置し、本年二月から援助活動を実施するほか、本市独自の高齢者福祉施策である温泉デイサービスや配食サービスに加え、「高齢者住宅改良支援助成金交付事業」を実施するなど、白石型福祉が着実に推進され、福祉の向上が図ら

れました。

さらに、文頭でも述べた市内大手製麺企業倒産に伴う、従業員の就労先確保のため、市と地元商工関係者などにより、「白石市緊急雇用経済対策協議会」を設置し、関係機関に積極的に働きかけたほか、厳しい高校卒業予定者の雇用情勢の改善を図るため、市内企業に積極的な求人をお願いし、雇用の拡大に努めてまいりました。

そのほか、ワークシヨップによる市民の皆様のご意見を基に、福岡中学校体育館の改築や、総合福祉センターをはじめ、市内すべての公民館、全小中学校のアテネとの接続による行政サービスの地域均一化、高速化など、インターネットの整備促進を図るなど、昨

年は本市にとって重要な施策、事業が展開されました。

今年には、市民の生命を守るため最高の医療を提供する、公立刈田総合病院の移転新築が完了することにより、福祉の里とのネットワーク化によって、「保健・福祉・医療」の一体化をさらに進めてまいります。

また、本町地区に健常者と障害者が共生できる「ノーマライゼーション」のまちづくり実現のため、同時に中心市街地の活性化を目指し、デイサービスセンターと高齢者・ボランティア生きがい活動施設や子育て環境施設を併設した、「仮称」白石市ふれあいプラザの整備事業を進めるとともに、中心市街地ににぎわいを取り戻し、地

場産業の振興を図るため、本市固有の文化である水を活用した、「仮称」中町ボケツトパーク」整備事業を進めてまいります。

さらに、地域の観光と地場産品などの販売促進による高齢者の活力を生かしたまちづくりを目指し、小原地区に「検断屋敷」を復元してまいりたいと考えております。

教育面におきましては、ワークシヨップによる市民の皆様のご意見を基に設計された南中学校体育館の改築に着手してまいります。環境面では、地球環境に配慮した行政を行うため、ISO14001の認証取得を目指し、また、循環型社会構築実現のため、生ごみのバイオマス化を進めると同時に、引き続き水源地に計画されている小原上戸沢産廃廃棄物最終処分場の建設断固阻止に努めてまいります。

その他、柿の里構想・小原の寒くずに代表される「個性ある農業」やソバを生かした地域づくり、産業の振興に努め、均衡ある発展を目指してまいります。

本年も二十一世紀にふさわしい活力に満ちた白石市建設のために邁進してまいれる所存でありますので、市民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。



白石市議会議員

市 野 昭 制

また、地方自治体においては、安全に暮らせる道路整備などの生活基盤の拡充、安心した子育てや老後のための少子高齢化社会の充実、基盤産業である農業の振興、中心市街地の商店街の活性化など市民が豊かさを実感できるソフト事業の課題が

山積しております。

これら課題に対処するため、一昨年四月に地方自治体の自己決定・自己責任という地方分権一括法が施行されましたが、地方の財源が明らかにされないほか、政府の経済財政諮問会議において「地方交付税や道路特定財源の見直し」が提起されるなど、地方の実情を無視した都市の論理が横行することは、地方分権型社会に逆行する由々しき情勢であります。

市議会としては、これら国の動向をにらみ合わせ、県内一の健全財政を堅持するとともに、市民と行政のパートナーシップによる「くらし日本一のまちづくり」に向け審議を尽くしてまいりたいと思っております。

また、市民にさらに信頼される「開かれた議会」に向け、議会改革に取り組みが必要があると、議員一同決意を新たにしておりますので、より一層のご支援とご叱声を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。



生徒やPTA、地域住民の意見が設計に生かされた福岡中学校の新体育館



今年開院する新公立刈田総合病院

新年のごあいさつ

